



周籍彦作  
貞画

尤九編上

13  
3013  
29



倭集の田舎原山  
母九福

柳年権彦作

秋河岡貞画

仙居



田舎源氏第廿九編序

小倉山房定家卿の日記と云るえ善悪圖傳を悪玉踊りの書のこと

と思へるあつときまの早點頭又その草紙を或人讀て源氏物語の名

おも似ぞ義經も弁慶も見えぬいふと雅トる座貞さう最をうし

予答てうの病の林示厭小鞍馬山小登るといひ實僧正小劍術とる

五條あつ夕顔の病ででの千人斬亀井戸困伊勢の齋院海尊

あつ常陸宮石橋山の伏木と大君が逸者雀が花いで勝月夜の

扇の的を桂樹が小弓で射させ山名の討ちが鶴越を坂ありの

須戸の巻彼浦あつの御後の日浪風あつ光氏が船の危きところへ

抑これいと知盛の幽霊があつて悪源太の亡魂がある雷とあつて

あつ桂川の鶉飼の鶴が名劍と唾へあけ忠信と空蟬の甚盤城

京大十し古冊

るはて敵とふせぎ。遠坂の関のり日。も富樫が留るといふやうな彼旗色の  
 紅白源氏平家の事まで怒りそへるをうからんが初中を更心の  
 つらざりし。儲の編の鈍色の袖をかへて入日と招く。落雲をとりて  
 朝顔も。宗盛の事へる。五郎の舞の静も出されば八艘の舟  
 何うへうつらふやと思ひ。か田貫が切腹の正本のとをあらわす  
 例の我侘ごうやう琵琶でうひさうする伏見常盤をそのめりあつた彼  
 雅問を防がふ丁度所も堀川夜討女の似氣る。何と弁慶懐  
 の相狭子ゆい七ツ道具のありのやせんと拍子よかつて書つてを光  
 源氏と源ごが混雑て予ふも分らむ。見あふ人の従父あまの浮橋  
 ことえりて未までいかなつるなれどもう二十帖稿を脱ま

柳亭種彦



菊咲の母  
 鏡蔓

つきをさき昔ありぬんこそ人のつ  
つひ  
そへて  
ほくられ



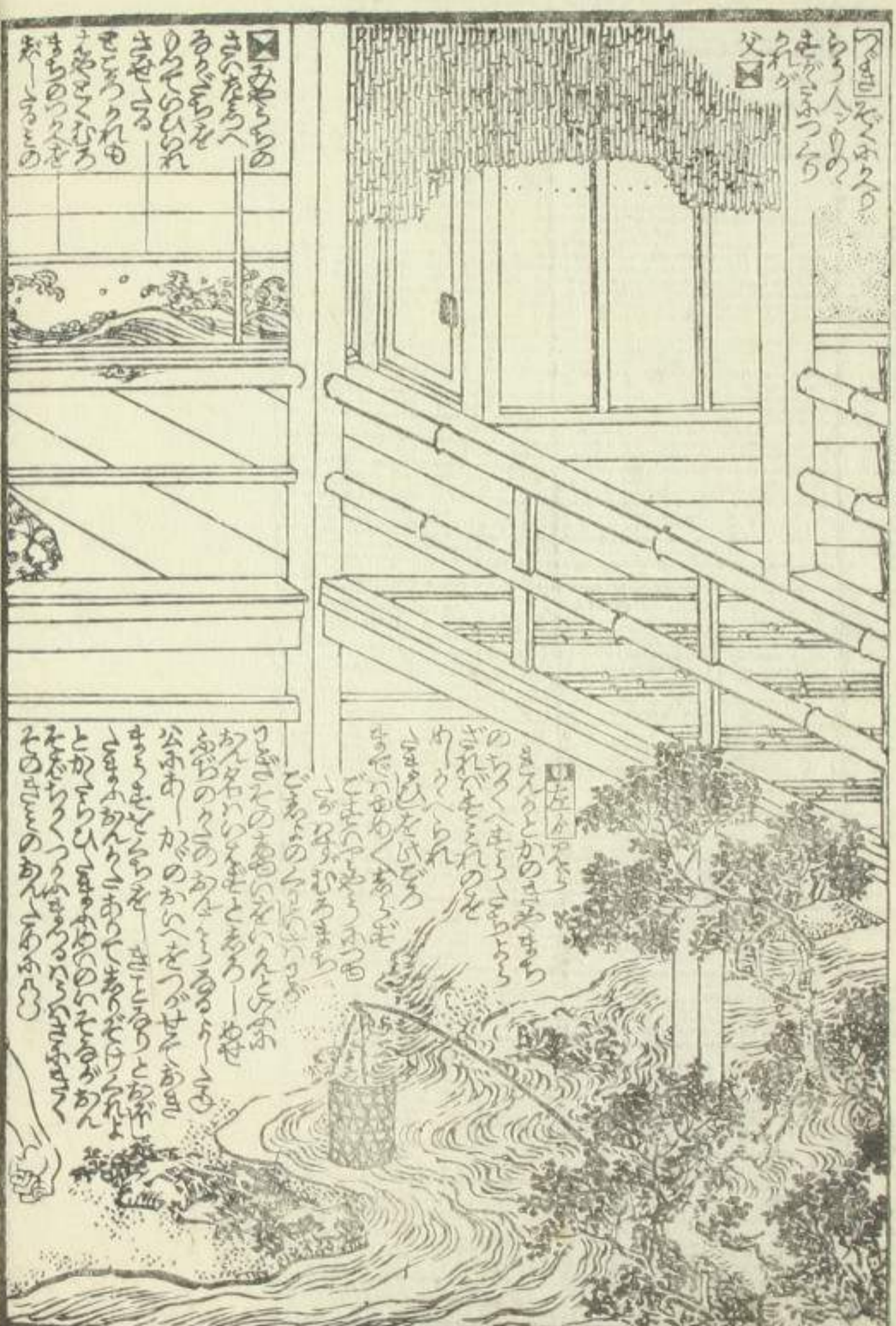
あつこめて  
あふかえ  
んえん  
人のうんお  
かりと  
はし  
んたかり我

菊咲

あふかえ  
んのうんお  
かりと  
はし  
んたかり我







うしろのうしろ

I

白雲の

II



Illustration of a woman in a kimono standing outdoors. She is wearing a patterned kimono and has her hair styled in a bun. She is looking towards the right. There are trees and a building in the background.



Illustration of a woman in a kimono sitting on the ground, looking down at a bowl. She is wearing a kimono with a cross symbol on the chest. There are waves and a building in the background.









源氏物語

九



源氏物語

九

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a commentary or transcription of a scene from the Tale of Genji. The text is densely packed and covers most of the page area.



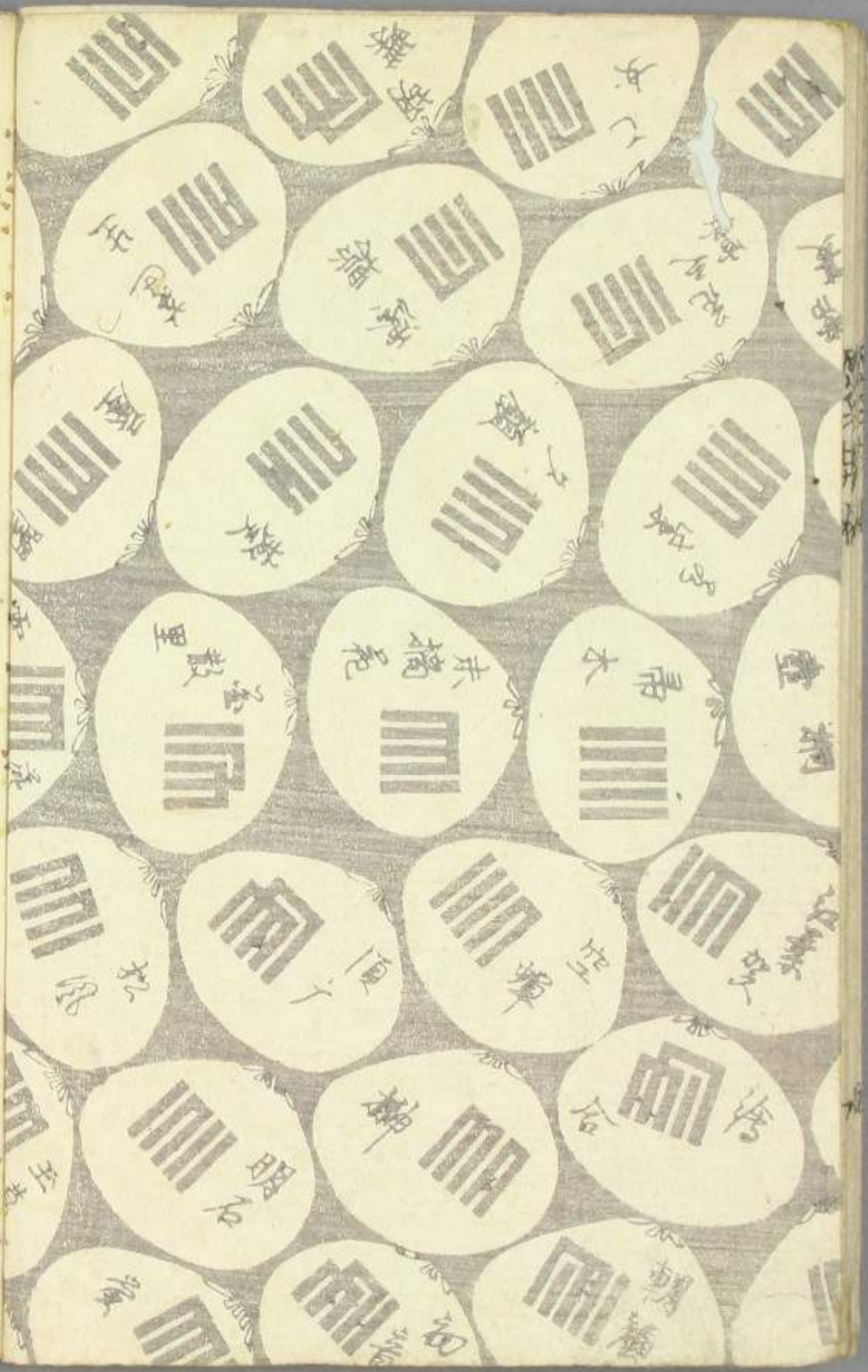
Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the commentary or transcription. The text is arranged in columns around the central illustration.







九九編下





源七郎

水ノ  
 澤ノ  
 水ノ

艮ノ  
 艮ノ

澤ノ  
 水ノ

種彦作  
 田貞成

下  
 下  
 下













三の巻 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

赤松太郎

高直

改名

廣席

左のこまけらのを







左の女は、昔の御前の御影を、  
 今も心に留めて、涙を流して  
 見守る。その御影は、昔の  
 御前の御影を、今も心に  
 留めて、涙を流して見守る。

田舎の女は、昔の御前の御影を、  
 今も心に留めて、涙を流して  
 見守る。その御影は、昔の  
 御前の御影を、今も心に  
 留めて、涙を流して見守る。

田舎の女は、昔の御前の御影を、  
 今も心に留めて、涙を流して  
 見守る。その御影は、昔の  
 御前の御影を、今も心に  
 留めて、涙を流して見守る。



その御影は、昔の御前の御影を、  
 今も心に留めて、涙を流して  
 見守る。その御影は、昔の  
 御前の御影を、今も心に  
 留めて、涙を流して見守る。

田舎の女は、昔の御前の御影を、  
 今も心に留めて、涙を流して  
 見守る。その御影は、昔の  
 御前の御影を、今も心に  
 留めて、涙を流して見守る。

田舎の女は、昔の御前の御影を、  
 今も心に留めて、涙を流して  
 見守る。その御影は、昔の  
 御前の御影を、今も心に  
 留めて、涙を流して見守る。



# 歌川國貞画 柳亭種彦作



この世にえあけ  
そのあけのうらへ  
まあるなとのやうに  
あけのうらへをきかせ  
とのそのあけのうらへ  
たかしくのれへとまの光氏りそんく  
くらまをきかせるやうに  
これへあたまるともかあるのあけ  
そのあけのうらへをきかせ  
らるるとしてまの  
ちのけをきかせる  
かへり目とまの  
くまのうらへを  
てのうらへを  
あそれをきかせ

精製御白粉 御白髪友條茶  
美艶仙女香 黒油美玄香  
月の勝年おま 御用おやくおせ  
あらかさく 製方念入ひなる  
ゆりこのやと  
南條馬町目  
坂本氏

清書 金川

## 倅紫田舎源氏

鳥有山人作 歌川國貞画

捕一代記 五冊  
鳥有山人作 歌川國貞画

百人一首雅講釋 八冊  
山東京山作 歌川國貞画

清盛一代記 五冊  
鳥有山人作 歌川國貞画

無筆節用似字盡 各再板  
視藥霞引札

柳亭種彦作 歌川國貞画

佐野渡怨敵懸橋 全六冊  
五雲亭貞秀画

櫻風呂花半開 全四冊  
白雲洞主人作

藻塩岬須磨書替 全四冊  
松下樓麓谷作

曲亭馬琴作 歌川國貞画

美艶仙女香 四十八銅  
黒油美玄香 三百西則  
坂本氏製



書物錦繪問屋  
團扇地紙

江戸通油町  
鶴屋喜右衛門





源氏十卷

二十